市政について問う！

一般質問

【個人質問】第四回（二月）定例会では、十人の議員が市政について質問しました。

議員名	主な質問項目（太字掲載）	掲載頁
髙橋　達也	**中学生の傷害事件**、放課後児童クラブ定員超過問題、動物愛護、戦略的な国際交流	8
渡邉　博夫	**体育活動中の負傷事故**、学校配置適正化、小１問題、防災施策	8
小澤　　隆	**職員の人材育成**、職員の大局的理念の共有、「沼津市職員の信条」の実践	9
長田　吉信	**アレルギー疾患への支援**、災害時非常食の備蓄	9
殿岡　　修	**鉄道高架化**、原西部の地権者、富士見町の住民への迷惑	9
久保田吉光	**本市西部地区の道の駅構想**、胃がん検診におけるリスク検診の導入	9
霞　　惠介	**学校配置の適正化、静浦小中一貫学校の成果**	10
梶　　泰久	**湧水の活用**、交流人口増加策、自噴井戸、市民団体、環境	10
渡部一二実	**フードバンクふじのくにへの支援**、インバウンド向けグリーン・ツーリズムの拡大	10
梅沢　　弘	**高尾山古墳の保存**、高校会議所と地域活性化、持続可能な自治体	10

中学生の傷害事件

本市中学生の傷害事件への対応は

髙橋　達也

問 本市中学生の傷害事件への対応と、今後の事件防止に対する考えは。

答 教育長／事件発生後、直ちに関係生徒のいる学校に指導主事を派遣し、情報を収集するとともに、学校等の対応について指導と支援を行った。事件に関与した生徒に対しては、事件当日の状況や背景について聞き取りや生活態度の改善に関する指導を行っている。各学校においては、全教職員で生活指導方針の徹底や校内規則等の遵守、規範意識の醸成など、一貫した指導に努めている。また、近年のＳＮＳ等による交友関係の広がりから、問題行動が複数の学校や市町にまたがってきているため、今後は情報交換や情報共有をさらに積極的に行い、他市町とともに問題行動の把握に努めていく。教育委員会においても生徒指導担当者を対象に、児童生徒の心理状態を把握する研修を行うなど、指導力向上に努めているところであるが、今回の事件を受け、教職員、保護者、警察等が協力して、生徒の問題行動を敏感に捉えることが不可欠と考えている。今後も問題行動の有無にかかわらず、全ての生徒が、個々の力を発揮し、生き生きとした学校生活を送れるよう努めていく。

体育活動中の負傷事故

体育活動中の負傷・事故に対する認識は

渡邉　博夫

問 本市の小中学校の体育活動中における救急搬送を必要とする負傷・事故等の発生件数とその内訳は。

答 教育長／発生件数は平成二十五年度に一件、二十六年度に六件、二十七度年に四件であり、内訳は、骨折、捻挫、打撲、熱中症等である。

問 体育活動中の負傷・事故防止のための安全確保対策は。

答 教育長／体育活動を行うに当たり、安全を確保するためには、教員が日ごろから児童生徒の健康状態を観察しながら、適正な指導を行うとともに、児童生徒の実態に応じて、みずから危険を予測し安全に行動できる能力を育むことが重要であると考えている。具体的な対策としては、施設や用具の安全点検の徹底のほか、体育活動開始時の準備運動、用具の正しい使い方や児童生徒自身の体調、体力、技能の程度に応じた目標設定などの安全指導を行っていくとともに、実技研修会への積極的な参加や安全マニュアルの活用などにより、教員の指導力向上を図っていく。また、事故発生時を想定した危機管理マニュアルを各校で作成し、医療機関等と連携しながら、全教職員が生命の維持を最優先として、適切に対応できるよう、引き続き努めていく。